

たより



第 16 号

平成 25 年度夏季教職員研修講座

【松久眞実先生を迎えて】(プール学院大学講師)

通常学級における特別支援教育

「発達障害の子どもをつつむクラスづくり」



8月22日(木)、松久先生を初めて伊勢市にお迎えし、通常学級における特別支援教育の研修講座を開催しました。松久先生は、県教委主催の研修講座の講師として何度も三重県にお越しにいただいている大評判の方です。

この日もご自身の学級づくりの経験を赤裸々にしかも熱く語っていただきました。130名を超える先生方の講座満足度は100%。平成25年度夏季教職員研修講座の最後を飾る中身の濃い研修となりました。

学級崩壊の経験から

松久先生が数年前に経験された学級崩壊状態は、[暴言・暴力・けんか・トラブル・すぐキレル・授業中の唐突で終わらないおしゃべりなどが絶えない]...というものだったそうです。通勤途中で「今日こそ休みたい。」という気持ちが込み

上げてくる毎日だったと言います。しかし、自分の周りを見るといつも学級づくりがうまくいく人たちがいる...「私にできなくて、あの人たちにできることは何なのか。」と問い続けたそうです。そこでたどりついたのが、様々な取り組みの共通基盤としての「クラスづくりのポイント」です。

教室の刺激を減らす

- 視覚的刺激

- 聴覚的刺激

信頼できる大人がいる

心を許せる友だちがいる

「発達障害の子どもをつつむクラスづくり」には、安全でいじめのないクラスであることが最大の支援だとおっしゃいます。なるべく小さな労力で効率よく大きな効果が上がることから取り組みを始めること。大きな労力を必要とすることはほんの少し後回しに。授業のソーシャルスキルを徹底するためにも、授業にくだらないようにすること。

授業時間が削られると教師も苦しいし、発達障害のある子どもたちはスピードについていけなくて余計に苦しくなるというのです。小さな取り組みながら効果がある取り組み、どの子どもにも合う最大公約数的な取り組みを積み重ねることが大切なのだと松久先生は話されます。

松久先生は、安全で秩序のあるクラスをつくるための「あったかクラス作戦」として、20個の取り組みを提案されています。今回はその中からいくつかお話しいただきました。

『静寂の時間』を増やす

「教室の音を徹底的に減らすこと。音は音を呼ぶのです。」と松久先生。落ち着きがなく、すぐにガタガタと音を立ててしまう子どもがいたらそっと近づいて、「その音やめてね。」とヒソヒソ声で伝えます。『先生は音が嫌い。』と全身で伝えるのです。

「怒るよりも笑えるタイムアウト」も話題になりました。いつもガミガミ怒っていると、肝心な時に子どもたちに効き目がない...そこで、どんどん効き目の容量が小さくなるということです。

そこで、「木レベル」（下記参照）程度の怒りのときは、怒るかわりに「笑えるタイムアウト」で対処することを勧められました。「ペナルティで休み時間を奪う」こともその一つです。帰りの会の後子どもを残して、わざとお手伝いをさせて、「よくやったね。」と褒めることや、教室のゴミを7個拾ったら帰ってもいいということにして、たまに「5個におまけする」、「先生のいいところを8個言ってみて。」という課題を出す...など。少しプツと笑ってしまうようなペナルティを科すことが子どもたちとのコミュニケーションにもなり、あたたかいクラスづくりにつながるということです。

「おだまりモード」の提示...目的はクールダウン
授業の中で、しゃべらなくてもできる課題に向かわせているとき（例：視写・ノートとりなど）は、「おだまりモード」を提示して、一切しゃべらせないこと。1分・長くて5分。

「ひそひそモード」の提示

授業の中で、ひそひそ声でしゃべる時間。20～30分はもたせたい。



< 言葉を減らす >

簡潔な短い言葉

長い説明はかえってありがた迷惑

拳げ足を減らす

教室が静かになる

イライラしない

しんどいときは、言葉は無用

「叱るのはあっさり。行動はしつこく！」先生は力説されます。決めたことにはきちんと取り組ませる必要があります。「こんなことで叱っていたらもったいない！」ということでは、極力叱らないでいたいものです。そして子どもに向かうときには、「言葉を減らす」ようにしたいと松久先生。

「森レベル・林レベル・木レベル」とは？

年度当初に、教師の怒り方の3レベルを告知しておく、子どもたちが怒られても納得するとのこと。また、見通しの立つ怒り方、あいまいでなく明確な怒り方を構造化しておくことが大切であると話されました。

森レベル...人の心と体を傷つけた時

林レベル...できることをしない時

木レベル...忘れ物や給食を残した時など



集団指導の具体的な取り組み

「いがいがことば」を減らす
森レベル・林レベル・木レベル
「静寂の時間」を増やす
怒るより、笑えるタイムアウト
叱るのはあっさり、行動はしつこく
上品と下品
3秒ルール
「あと4分27秒で終わります」
先生ドリル
「自力でAを勝ち取ろう」
7割以上の全体の指示以外は、近づいて小さな声で
ぼくのおまじない
早口でなく、ゆっくり毅然と。相手の興奮はトーンを変えてかわす
具体的指示
記念日遊び
教室では、目から、耳から～先生のポケット連絡帳を字の指導に使えば、一石二鳥
ソーシャルスキルカードをクイズ形式で
クラス認定あだな・ともだちじまん
将棋・囲碁・オセロ・トランプなどを有効に使う

<叱り方の基本>

- ・人格否定の小言を言わない
- ・頭ごなしに叱らない
- ・叱られる理由を明確にする
- ・ついでにあれこれ叱らない
- ・心に響く言葉で叱る(「あなたらしくない」)
- ・1対1で叱り、メンツをつぶさない
- ・皮肉、脅し、威嚇をしない
- ・逃げ道を用意する

「叱り方の基本」をもとに、これまでの自分を省みて、心がチクリと痛いと感じた先生も多かったようです。

「怒鳴ると教師側の興奮が伝わり、相手はますます興奮します。」と松久先生。思い当たる場面があるという表情の受講者のみなさん。「こちらの落ち着いた状態に巻き込むことが大事なのです。感情的に怒るとなめられます。挑発に乗らずにおろおろせずに毅然と叱りましょう。」と松久先生はきっぱりと話されます。

<叱り方のコツ>

- ・毅然とあっさり
- ・感情的に叱らない
- ・叱る基準を変えない
- ・見通しをもって、迷いなく毅然と言い切る
- ・怒ってないけど、怒ったら怖そうに見える先生を目指す
- ・オーラが出ている・カリスマティック
- ・カーナビ口調
- ・叱った後は、スッと引く



子どもたちは、信頼している先生・好きな先生の言うことには従います。では、信頼関係はどう築けばよいのかということについて、「好意に満ちた語りかけ」が重要であると松久先生は話を続けます。



「好意に満ちた語りかけ」...子どもを信じる・言い分を聞く・責めない

「悪意に満ちた語りかけ」...子どもを疑う・決めつける・嫌みや皮肉を言う

思い当たりませんか？

例えば給食の時間のこと。

保健室で休んでいた子どもが回復しておかわりに来たときに、「さっきまでお腹が痛いって保健室に行っったやんか。そやのに、もうおかわりすんの？」という悪意に満ちた語りかけをするよりも、「もうよくなったんやな。よかったな。たくさん食べなさいね。」と好意に満ちた語りかけをする方が、子どもとの関係はよくなることは目に見えています。日常の忙しさの中で、教師が悪意に満ちた言葉を発してしまうことがなかったかと松久先生は問いかけられました。



松久先生は、ご自身の経験やご家族についても、時に笑いを誘いながら楽しくそして心を込めて語って下さいました。明日から実践できる「発達障害の子どもを包むクラスづくり」のポイントを具体的にご提案いただき、みんなが元気になった3時間でした。



みなさんのアンケートから

関西弁でとても楽しく、内容も温かい話で大満足でした。

松久先生の正直なお話（自分の失敗談）に心をうたれ、話に引き込まれました。このような講座を待っていました。明日からまた頑張ります。

楽しくためになるお話が聞けてよかったです。私も担任をしているといろいろな子どもたちに出会います。自閉症やADHD、LDの子どもたちとともに学ぶときには本当に上手なフォローが必要だと思います。クラスを落ち着きたいいい関係にするのもとても大切だと思いました。松久先生のテンポのよい明るいお話の仕方がすてきでした。

とても参考になりました。一つ一つのことが教室で即実践につながると思いました。9月からは好意に満ちた語りかけを心得、子どもにイヤミを言わないように、しゃべりすぎないように、おだまりモード、ひそひそモードをやってみたいと思います。

現場の教員のたいへんさ、そして何よりも子どもの実態をとらえていただいていることが嬉しかったです。そして軽快な口調で大事なところを教えていただきました。2学期からの実践に役立てる心づくりをさせていただきました。

これまでの経験の中で、先生が語ることに共感することがたくさんありました。自分の反省すべき点がたくさんあり、自分のできることから、9月からすぐに始めていきたいと思います。

ギスギスしたクラスになってきたなと思っていました。私自身の言葉、行為が引き出していたんだと思いました。大声でどなる、いやみを言う...自分の姿を反省しました。

どの話も納得しました。先生の話聞きながら今のクラスの状況と重なる面が多くあったので、夏休み明け以降、いろいろと実践をしてみたいと思います。私は普段、できるだけ子どもたちの褒めるところを探していますが、叱ることも大切だと思いました。音が音を呼ぶというのはその通りです。静寂な時間を増やす努力をしたいと思います。

あっという間に時間がたってしまいました。今日は20個の取り組みの一部のお話だったので、また来年続きを聞きたいです。...（このご意見も多数ありました。）